

# カナダの大学における学寮の実践と その教育的意義—ブリティッシュ・コロンビア大学 の事例を手がかりに—

蝶 慎一（大学教育基盤センター准教授）

## 1. はじめに

### 1-1. 本稿の目的と意図

本稿の目的は、カナダの大学において学習志向を有する学寮の実践とその教育的意義について実証的に明らかにするために、ブリティッシュ・コロンビア大学（The University of British Columbia）の学寮での取り組み事例を手がかりとして実証的に考察することである。

近年、国際的に見て学寮生活における教育的な活動やその役割が重要視されている（e.g., Callahan, 2020, p.1449）。数年にわたるコロナ禍を経て、米国、中国、韓国の大学ではあらためてキャンパスライフの中心は学寮であることが再認識された（蝶・安部、2023）。換言すれば、これらの国々の大学における学寮は、単に学生生活を過ごすだけの物理的な空間・場所という見方から「大学教育の目的の達成に貢献」し得る「学習共同体」（Boyer, 1988=1996, p. 224）としての位置づけが長く与えられてきたのである。こうした学寮に対する関心の背景には、学寮で経験的に学び、達成してきた学習成果には「自尊心の向上、価値の明確化、リーダーシップの育成、健全な行動、自立、協調性が含まれる」（Callahan, 2020, p.1449）ことが共通認識になり始めた実状がある。

表1にある通り、カナダの大学における学生支援の理念、機能を跡づければ、「教育・学習コミュニティ」や「教室の内外で学ぶことのできる（略）コミュニティ」がキーワードとなり重点的に位置づけられてきたことが窺われる。一方で、「学習コミュニティ」の形成として最も重要な要素の一つであるはずの学寮については、カナダの学生支援団体 CACUSS（Canadian Association of College & University Student Services）の歴史的変遷（蝶、2021）をはじめ、大学図書館における学習支援の諸活動（呑海・溝上、2010）等、カナダの学生支援研究自体も少数であるが散見され始めている。しかし、Vetere（2010, p. 86）がカナダの学生居住の運用にかかる2つの側面（「教育と成長のプログラム」、「設備管理」）に言及し解説する程度にとどまっており、その教育的意義については、ほとんど実証的に明らかにされてこなかった。こうした要因には、「カナダの高等教育に関する研究蓄積」が「少なく、『北米の教育』などにカテゴライズして論じられることが多い」（朴木、2018、508頁）との指摘があるように、北米特有の高等教育ならびに学生支援の研究上の背景が存在している可能性が考えられる。

カナダの大学における教育的な学寮に関して先駆的調査を行った先行研究の Hobbins（2016）によれば、カナダの学寮では全米の学寮調査である NSLLPs（The National

Student Living-Learning Programs) の動向をフォローすることで米国における学寮の学習志向やそのプログラム開発の影響を強く受けているという (pp. 13-15)。同様に、米国からの学寮をめぐる影響と言う点では、Vetere (2010) の指摘によれば、カナダの「学寮担当職の専門職能開発は、米国を基盤とした Association of College and University Housing Officers-International (ACUHO-I) の組織を通じて通常提供されている」(p. 85) ことも分かっている。そもそも米国の学寮をめぐる先行研究には豊富な蓄積があり(安部・植松、2022)、個別大学の学寮の取り組み事例が嚆矢となることで学生支援の新たなアプローチが創出されてきた側面が見られる(蝶、2023)。以上を踏まえると、本稿でカナダの大学における学寮に焦点を当てることは、米国、ひいては日本の大学における学習志向の学寮(近年増加しつつある「教育寮」を含む)にも実践的示唆が少なくないと考えられる。

表1 カナダの大学等における学生支援の理念と機能, 目的

理 念 (premises)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「大学機関の<b>教育上のミッション</b>は最重要である」</li> <li>◆ 「<b>教育・学習コミュニティ</b>における生活の質は<b>教育上のミッション</b>にきわめて重要である」</li> <li>◆ 「個々人は価値や尊厳を有し、尊敬をもって接すべきである」</li> <li>◆ 「高等教育は個人の全体的成長を目指さなければならない」</li> <li>◆ 「学習活動は状況次第であり、広範囲の人的環境的な要因によって影響される」</li> <li>◆ 「<b>学生担当職は教育者</b>である」</li> <li>◆ 「高等教育機関の教育上の目標は、学生、事務職員、教員とともに学生支援のパートナーシップを通じて最も良く実現される」</li> </ul>
機 能 (functions)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「<b>教育的機能</b>」(「<b>成長と発達</b>の<b>機会提供</b>」、「<b>対処スキル</b>の<b>指導</b>」)</li> <li>◇ 「<b>支援的機能</b>」(「<b>学習環境</b>の<b>提供</b>」、「<b>経済支援</b>」、「<b>特別支援活動</b>」)</li> <li>◇ 「<b>調整機能</b>」(「<b>各種スタンダード</b>の<b>開発</b>」、「<b>法律上・安全上支援</b>」)</li> <li>◇ 「<b>対応的機能</b>」(「<b>専門性開発</b>」、「<b>調査研究</b>」、「<b>コンサルテーション</b>」)</li> </ul>
〔目 的 (purpose)〕
<p>「学生支援の主要な目的は、学生中心の教育を支援し、促進するプログラムの開発とサービスの提供を行うことである。(中略) <b>学生担当職の担い手は、学生が教室の内外で学ぶことのできるキャンパスコミュニティを形成し、維持する仕事を行うパートナーとして遂行する。</b>」(CACUSS, 1989, p.2)</p>

出典：蝶 (2021、75-76 頁) を引用・参照し、一部加筆の上、筆者作成。

## 1-2. 分析の観点

本稿では、以下3点を分析の観点として設定する。

第1の観点は、カナダの大学における学習志向を有する学寮の広がりについてである。

安部・植松（2022）や安部ほか（2017）が整理しているように、近年、米国大学の学寮では LLC（Living Learning Community）、すなわち、「学寮を拠点とした学習コミュニティ」（安部ほか、2017、117 頁）が急拡大している。そこで、カナダの大学においても LLC を含む学習志向の学寮が置かれ、その特筆すべき LLC の種類や特徴を明らかにする。第 2 の観点は、カナダの学寮研究の状況とその特徴についてである。米国で学習志向の学寮が拡大した背景には、前述の NSLLPs をはじめとする学寮調査による実態把握や検証作業が寄与してきたことが窺われる（安部・植松、2022、110-113 頁）。決して数は多くないものの、カナダの大学における学寮研究の主なテーマや特徴を検討する。そして、第 3 の観点は、カナダにおける学習志向を有する学寮の実践に迫るため、具体的な学寮事例を分析対象として詳述する。ただし、網羅的に学寮の諸活動を取り上げることは困難である。そこで、紙幅の都合上、特に学習志向の学寮で共通に見られる「構成要素」として先行研究で指摘のある RA（Residence Advisor）、つまり「学寮における学生スタッフ」<sup>1)</sup>の活動に焦点を当てたい。以上の分析の観点を通じて総合的に考察することで本稿の目的にアプローチする。日本の大学においても「コミュニティ」としての学寮に関心が高まりつつある中で（蝶・安部、2023、152-156 頁）、個別大学の学寮担当職の関係者である「実務者が基礎的資料として利用できる」（堂免、2023、200 頁）ような学寮の知見と論点を提供するため、単一事例の分析方法を採用する。

### 1-3. 研究方法

#### (1) 分析事例の選定

本稿では、単一事例の分析方法（e.g., 佐藤、2016；野村、2017、47-48 頁；石原、2023）を適用する分析事例として、ブリティッシュ・コロンビア大学の学寮を選定する。その理由として、第 1 に、同大学は学寮を含む「学生居住とコミュニティ・サービス（Student Housing & Community Services）」にかかる活動で「カナダにおいて最も大きな学生居住のシステム」<sup>2)</sup>を有していることが挙げられるからである。これは、カナダの大学において学寮の実践を通じた取り組みのインパクトが大きいことが想定され、更には具体的な実践を検討する上でも「基礎的資料」（堂免、2023、90 頁）が得られる可能性が少ないない<sup>3)</sup>と考えるからである。第 2 に、これまでカナダの学寮を対象とした事例研究は、カナダ国内でもほとんど見られないのが現状であり（詳細は後述の表 4 参照）、ゲルフ大学（The University of Guelph）の学寮を対象とした Hobbins の一連の先行研究（e.g., Hobbins, 2016）を除けば、本稿で検討するブリティッシュ・コロンビア大学の学寮については、ほとんど詳論されていない<sup>3)</sup>。ここから、事例それ自体としても新規性が高い点が選定理由になると考える。

#### (2) 分析事例の調査方法

続いて、分析事例の調査方法について具体的に述べる。本稿における調査は、ブリティッ

シュ・コロンビア大学における学寮にかかるインタビュー調査および実地訪問調査で入手した情報に加え、「学生居住とコミュニティ・サービス」の組織等からの提供資料、関連ウェブサイトの掲載情報等の一次資料に基づいて分析し、考察を試みた。

表2 ブリティッシュ・コロンビア大学の学寮にかかる主な資料・文書

資料・文書名（発行者，発行年月等）	資料・文書の概要	入手先，提供先
①UBC Residence Advisor Handbook (Student Housing and Hospitality Services, The University of British Columbia, 2019年)	2019年版『RAハンドブック』。	ブリティッシュ・コロンビア大学の担当職員より資料提供（※本表注2参照）。
②名称不明（※表紙が欠落しており、正式名称不明） (Student Housing & Community Services, The University of British Columbia, 2022年)	2022年版『RAハンドブック』。	同上。
③RA (Residence Advisor) training schedule (※提供資料のため正式名称不明) (2022年8月)	2022年8月のRAの研修日程の一覧表。	同上。
④Residence Advisor 2023-2024 Job Description (Student Housing & Community Services, The University of British Columbia, 2023年)	RA (2023-2024年版)の業務内容等を説明した『職務記述書』。	<a href="https://vancouver.housing.ubc.ca/wp-content/uploads/2022/11/Residence-Advisor-Job-Description-2023-24.pdf">https://vancouver.housing.ubc.ca/wp-content/uploads/2022/11/Residence-Advisor-Job-Description-2023-24.pdf</a>
⑤Residence Advisor 2020-2021 Job Description (Student Housing & Community Services, The University of British Columbia, 2020年)	RA (2020-2021年版)の業務内容等を説明した『職務記述書』。	<a href="https://vancouver.housing.ubc.ca/wp-content/uploads/2019/11/Residence-Advisor-Job-Description-2020-21.pdf">https://vancouver.housing.ubc.ca/wp-content/uploads/2019/11/Residence-Advisor-Job-Description-2020-21.pdf</a>
⑥Residence Advisor 2018-2019 Job Description (Student Housing & Hospitality Services, The University of British Columbia, 2018年)	RA (2018-2019年版)の業務内容等を説明した『職務記述書』。	<a href="https://vancouver.housing.ubc.ca/wp-content/uploads/2017/12/Residence-Advisor-2018-19.pdf">https://vancouver.housing.ubc.ca/wp-content/uploads/2017/12/Residence-Advisor-2018-19.pdf</a>
⑦UBC Vancouver Student Housing & Community Services 5-Year Plan 2022/23-2026/27 (The University of British Columbia, 年月不明)	「学生居住とコミュニティ・サービス」の組織における5年の戦略計画。	<a href="https://shcs.ubc.ca/wp-content/uploads/2023/01/SHCS-Vancouver-5-Year-Plan-2023%E2%80%932027.pdf">https://shcs.ubc.ca/wp-content/uploads/2023/01/SHCS-Vancouver-5-Year-Plan-2023%E2%80%932027.pdf</a>

出典：筆者作成。

注1：「入手先，提供先」の欄に記載されたリンクの最終確認は、2023年11月11日である。

注2：当該担当職員は、「学生居住とコミュニティ・サービス」部課の所属。

まず、インタビュー調査および実地訪問調査については、2022年10月中旬にブリティッシュ・コロンビア大学の「学生居住とコミュニティ・サービス」の部課の担当職員（1～2

名程度)に半構造化インタビューを約2時間程度行った。このヒアリング調査での聞き取り内容は、主に表2の多様な一次資料を分析する際に参考、参照することで活用した。

また、2023年6月上旬には、上記の担当職員のうちの1名から以下の表2で記載している「学生居住とコミュニティ・サービス」の組織が作成発行した資料の一部をメールで提供いただいた。これらの提供資料についても本事例分析にあわせて検討した。具体的には、ブリティッシュ・コロンビア大学における『UBC Residence Advisor Handbook (UBCのRAハンドブック)』や、同大学におけるRAの『Job Description (職務記述書)』の一次資料である(表2参照)。

## 2. カナダにおける学寮の動向と特徴、学寮研究の射程—LLC等に焦点を当てて—

まず、カナダの主な大学での学寮をめぐる概況と学習志向の高まりを見せるテーマ別のLLCの設置状況を整理しながら、前提となる全体状況を検討する(2-1.)。次に、LLCに代表されるカナダにおける学寮研究の動向、特徴を整理する(2-2.)。

### 2-1. カナダの学寮をめぐる主な概況

管見の限り、カナダでは、全米レベルで長く実施され続けている前述のNSLLPsのような学寮を主対象とする全国レベルの調査が存在しない。しかしながら、具体的な学寮の実状を把握するためには、個別大学が公表している関連情報に踏み込んだ整理が必要である。

そこで表3では、カナダ全体から無作為に抽出した7大学(トロント大学、クイーンズ大学、ウォータールー大学、ゲルフ大学、サイモンフレイザー大学、ウェスタン大学、ブリティッシュ・コロンビア大学)の学寮に関するウェブサイトの掲載情報に基づき、学寮、特にLLCの名称、テーマ等の種類、特徴を描出し、整理した(表3参照)。紙幅の都合ですべての概要を詳述できないが、例えば、ウォータールー大学では、「グローバルビジネスとデジタル芸術(Global Business and Digital Arts)」や「レクリエーションとレジャー学(Recreation and Leisure Studies)」といった現代的かつ卒業後を見据えるような実用的なテーマのLLCが置かれていることが分かる(表3参照)。加えて、「ピア・リーダー(Peer Leader)」と称される上級生のメンターを配置していることも特徴的である。

同様に表3より、ゲルフ大学のテーマ別ハウスでは、「専門のRA」が置かれ、「イベントを毎週企画し、お互いの結束を高め、思い出に残る体験をする手助け」を行っている。そのほか、多くの大学で居住する学生の学問的、あるいは、趣味的な興味関心までも惹起し得るようなLLCが多く存在していることが窺い知れる。

以上より、少なくとも主な7大学の学寮では、LLCとして置かれることで学生自らが個々の興味関心に合わせた経験的な学びを推進する取り組みが展開していることが窺える。

表3 カナダの7大学における学寮の概況—LLC等の種類、特徴—

学寮 (LLC) の概要, 説明	学寮 (LLC) の名称や概要
<p><b>【トロント大学】</b> (オンタリオ州)</p> <p>○<b>Living Learning Communities</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ興味や分野を共有し、少なくとも1つの授業を一緒に受講する学生と一緒に生活」(ミシサガキャンパス)</li> <li>・「LLCの学生は、上級生(LLCプログラム・ファシリテーター)と一緒に生活し、LLCの学生での友達作り、学業で成功を収めることができるよう、年間を通してサポートする」(ミシサガキャンパス)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8つのLLCが設置(ミシサガキャンパス)。 Bio/CCIT/CompSci/Education/Foundations/Global/LEAF/LifeSci.</li> <li>・ユニバーシティ・カレッジには、主に4つのコミュニティが設置。 Life Sciences Community/Arts and Culture Community/Health and Wellness Community/Global Perspectives Community/ (Single-Gender Floors; Limited Spaces Available)</li> </ul>
<p>(出典) <a href="https://www.utm.utoronto.ca/housing/considering-residence/living-learning-communities">https://www.utm.utoronto.ca/housing/considering-residence/living-learning-communities</a> <a href="https://www.uc.utoronto.ca/students/residence/living-learning-communities">https://www.uc.utoronto.ca/students/residence/living-learning-communities</a> を参照。</p>	
<p><b>【クイーンズ大学】</b> (オンタリオ州)</p> <p>○<b>Living Learning Communities &amp; Unique Communities</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「同じ学問的または個人的な興味を持つ学生どうしによる共同体感覚を育み、共同的に学び、成長する豊かな空間を提供」。</li> <li>・「興味関心を基本とするLLCに所属する学生は、魅力的なアクティビティやワークショップ、学生との交流会等を期待」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの種類のLLCが設置。 Interest-Based Living Learning Communities (Active Living LLC/Creative Arts Floor/Leadership Floor) Faculty-Based Living Learning Communities (例: Nursing/Computer Science/Social Science/Science/Engineering) Unique Communities (Female Identified/Alcohol and Cannabis Not Preferred/Pet Friendly)</li> </ul>
<p>(出典) <a href="https://www.queensu.ca/residences/life-residence/academics-living-learning-communities/living-learning-communities-unique-communities">https://www.queensu.ca/residences/life-residence/academics-living-learning-communities/living-learning-communities-unique-communities</a> を参照。</p>	
<p><b>【ウォータールー大学】</b> (オンタリオ州)</p> <p>○<b>Living Learning Communities</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キャンパス・ハウジング」の部課とユニバーシティ・カレッジ (University Colleges) の両方の組織が上記のLLCを提供。</li> <li>・「ピア・リーダー (Peer Leader)」と言う上級生のメンターを配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Arts and Business/Global Business and Digital Arts/Science (all programs)/Public Health or Health Sciences/Kinesiology/Recreation and Leisure Studies/Honors Mathematics</li> <li>・「同じ興味を持つ学生同士が集まるレジデンス・プログラム」としてLLCを設置。</li> <li>・各LLCには、「リーダーシップとサポートを提供する高学年のメンターが割り当て</li> </ul>

	<p>られ」、「リビング・ラーニング・コミュニティに参加することで、1年次の学習をより充実したものにするためのアカデミックなプログラムを利用することが可能」。</p>
<p>(出典) <a href="https://uwaterloo.ca/future-students/residence/living-learning-communities">https://uwaterloo.ca/future-students/residence/living-learning-communities</a> を参照。</p>	
<p><b>【ゲルフ大学】</b> (オンタリオ州)</p> <p>○<b>Living Learning Communities</b></p> <p>・「専門の RA がおり、ハウスのコミュニティのテーマに沿ったイベントを毎週企画し、お互いの結束を高め、思い出に残る体験をする手助け」。</p>	<p>Arts House / Eco House / Indigenous House / International House / La Maison Française</p> <p>・各コミュニティには 25～50 名が居住。</p> <p>・Arts House は、1914 年に建築の伝統的な赤レンガ造りの建物で、キャンパスの中で最も活発な LLC のひとつ。</p>
<p>(出典) <a href="https://housing.uoguelph.ca/our-communities/residence-learning-communities/living-learning-communities">https://housing.uoguelph.ca/our-communities/residence-learning-communities/living-learning-communities</a> を参照。</p>	
<p><b>【サイモンフレイザー大学】</b> (ブリティッシュ・コロンビア州)</p> <p>○<b>Living Learning Community</b></p> <p>・「学業面でも社会面でも学生どうしを結びつけ、継続的な学習、個人的な成長、教室外での他の学生、スタッフ、教授陣との強い結びつきの場を提供」。</p>	<p>Indigenous Living Learning Community / Leadership Empowerment and Development / Beedie School of Business Undergraduate Community / The Engaged Global Citizenship Community</p>
<p>(出典) <a href="https://www.sfu.ca/students/residences/housing-options/living-learning-communities.html">https://www.sfu.ca/students/residences/housing-options/living-learning-communities.html</a> を参照。</p>	
<p><b>【ウェスタン大学】</b> (オンタリオ州)</p> <p>○<b>Living Learning Communities</b></p> <p>・「テーマ別フロア」として設定。</p> <p>・「同じ学部、同じプログラム、同じ興味を持つ学生が同じフロアで共同生活」を展開。</p> <p>・「より充実した生活と学習環境を提供するため」、また、「より充実した生活・学習環境を提供するため」に運営、展開。</p> <p>・「コミュニティへの参加を組み合わせた、より充実した生活・学習環境を提供する」ことを意図。</p>	<p>DELAWARE HALL (Music, Nursing, Indigenous and Ally Community) / MEDWAY-SYDENHAM HALL (Health Science, Arts &amp; Humanities, Science) / ONTARIO HALL (School of Advanced Studies in Arts &amp; Humanities, Integrated Science, 2SLGBTQ+ and Ally community) / ESSEX HALL (Engineering) / ELGIN HALL (Scholar's Elective Program, Medical Sciences) / SAUGEEN-MAITLAND HALL (Management &amp; Organizational Studies, Kinesiology, Engineering) / PERTH HALL (Management &amp; Organizational Studies, Information &amp; Media Studies)</p>

(出典) <a href="https://residence.uwo.ca/pdf/living_learning_communities">https://residence.uwo.ca/pdf/living_learning_communities</a> <a href="https://residence.uwo.ca/offer_book">https://residence.uwo.ca/offer_book</a> を参照。	
<p>【ブリティッシュ・コロンビア大学】(ブリティッシュ・コロンビア州)</p> <p>○Living Learning Communities</p> <p>・「安心・安全な生活と学習環境を提供することは、個人的な成長と学問的な成功を促進する教育機会及び関連するコ・カリキュラム (co-curricular) にアクセスすることを有する」と明確に規定。</p>	※ 詳細は、後述 3. を参照。
(出典) <a href="https://vancouver.housing.ubc.ca/">https://vancouver.housing.ubc.ca/</a> <a href="https://okanagan.housing.ubc.ca/ilc/">https://okanagan.housing.ubc.ca/ilc/</a> を参照。	

出典：安部・植松（2022、114 頁）を参考に、カナダの大学における学寮、LLC については、筆者作成。

注 1：本表における（出典）の最終確認は、2024 年 1 月 21 日である。

注 2：「学寮（LLC）の名称や概要」の欄は、特有の社会・政策等の文脈を含み得る可能性を考慮し、一部、和訳せずに記載していることを断っておく。

## 2-2. カナダにおける学寮研究の射程—テーマ、特徴から—

前項で確認したように、実際にカナダの大学の学寮には、LLC に象徴される多種多様な学寮が置かれている。他方、米国の学寮、LLC を合わせ鏡にする場合、カナダではこうした特色ある学寮の動向やその実態や課題について学術的な視点から研究は行われているのだろうか。表 4 では、「カナダの大学における学寮研究のテーマ、特徴、掲載媒体」を筆者ができる限り収集し、検討した。おそらく十分とは言い難く、米国の学寮研究と比較すると尚更だろう。しかしながら、近年になって注目すべき研究が立て続けに発表されている。具体的には、Hobbins によるゲルフ大学の学寮、正確には Residential Learning Community (RLC) に居住する学生と学業成績との関係に関する調査研究の成果である (Hobbins ほか、2016 ; Hobbins, 2016 ; Hobbins ほか、2017 ; Hobbins ほか、2018)。Hobbins (2016) では、カナダの大学における学寮の動向に関しては多分に米国の学寮、LLC の影響を受容していることを記述的にレビューしている (pp. 5-15)。そして、米国の研究成果を参考にゲルフ大学を事例に「学業成績 (academic performance)」、「リテンション (retention)」、「卒業 (graduation)」の 3 つの視点から上記の RLC の効果検証を試みている。ここから窺えるのは、少しずつではあるが個別大学の事例研究を含め、カナダにおいては学寮研究の射程が拡大しつつある状況が見られることだ。反対から述べれば、少なくとも表 3 の多くの大学では、具体的な実践として RLC、LLC の取り組みが研究よりも先行していると特徴づけられよう。つまり、本論文でのアプローチは、先行している実践とこれからの研究を架橋する重要な意味を持ち、引き続き、カナダの学寮研究の動向については体系的なレビューが必要となるだろう。



表 4 カナダの大学における学寮研究のテーマ、特徴、掲載媒体（近年）

著者名（発表刊行年）	掲載論文等のテーマ、特徴	掲載媒体、巻号・頁数
Teixeira（2012）	・学生居住の重要性 ・賃貸居住の状況	BC STUDIES, no.173, pp.123-142
（出典） <a href="https://ojs.library.ubc.ca/index.php/bcstudies/article/view/2374/186962">https://ojs.library.ubc.ca/index.php/bcstudies/article/view/2374/186962</a> を参照。		
Hobbins ほか(2016)	・総合大学での RLC の検討	Creative Engagement: Enhancing Learning Vol. 18, pp.1-26
（出典） <a href="https://journal.lib.uoguelph.ca/index.php/tli/article/view/3554">https://journal.lib.uoguelph.ca/index.php/tli/article/view/3554</a> を参照。		
Hobbins（2016）	・ゲルフ大学の RLC への参加と学業成果の間の調査研究	修士論文 Master of Science in Human Health and Nutritional Sciences ※ 詳細は、以下の（出典）を参照。
（出典） <a href="https://atrium.lib.uoguelph.ca/items/b0ae6198-7adf-479a-9d64-b3810b8d0f41">https://atrium.lib.uoguelph.ca/items/b0ae6198-7adf-479a-9d64-b3810b8d0f41</a> を参照。		
Calder ほか（2016）	・外国人留学生のハウジング、経済状況等の経験	Canadian Journal of Higher Education, Volume 46 No.2, pp.92-110
（出典） <a href="https://journals.sfu.ca/cjhe/index.php/cjhe/article/view/184585/pdf">https://journals.sfu.ca/cjhe/index.php/cjhe/article/view/184585/pdf</a> を参照。		
Hobbins ほか(2017)	・伝統的な学寮やキャンパス外に居住する学生よりも RLC に居住する学生の学業成績は高いか、という研究	Proceedings of the Western Conference on Science Education, Volume 1, Article 7, pp.1-5
（出典） <a href="https://core.ac.uk/download/pdf/61694351.pdf">https://core.ac.uk/download/pdf/61694351.pdf</a> を参照。		
Hobbins ほか(2018)	・RLC に居住する学生と学業成績との間の調査研究	The Canadian Journal for the Scholarship of Teaching and Learning, Volume 9 Issues 2, pp.1-15
（出典） <a href="https://ir.lib.uwo.ca/cjsotl_rcacea/vol9/iss2/7/">https://ir.lib.uwo.ca/cjsotl_rcacea/vol9/iss2/7/</a> を参照。		

出典：本表に記載している著者らの参考文献を参照し、筆者作成。

注：各（出典）の最終確認は、2023年11月13日である。上記の掲載媒体は、「参考文献」に記載していない。

### 3. ブリティッシュ・コロンビア大学における学習志向を有する学寮での実践内容とその特徴

続いて、ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC）では、どのように学寮を位置づけているのか、そこで掲げられている方向性を検討する（3-1.）。そして、同大学の学寮で展開されている RA にかかる取り組みを、RA に求められる業務内容と詳しい研修内容の双方を紹介することで分析する（3-2.）。

### 3-1. 学寮を拠点とする経験的な学修・生活の位置づけ、ビジョン

本節で分析事例に選定したカナダのブリティッシュ・コロンビア大学は、ブリティッシュ・コロンビア州の歴史ある中核的な高等教育機関であり (Dennison, 1997, p.32)、カナダにおける最大規模の世界的な研究総合大学である。タイムズ・ハイヤー・エドゥケーションの「世界大学ランキング 2024」では第 41 位にランクインした<sup>4)</sup>。ブリティッシュ・コロンビア大学は、研究活動のみならず学士課程教育を重視している大学としても著名であり、例えば「教育の業績を重視した終身雇用資格を持つ教員職の設置」(溝上・中島、2017、53 頁)を行っている。

なかでも強調すべき点は、同大学は研究総合大学であるが、キャンパスライフにおける学士課程の学びにも関心を寄せていることである。すなわち、大学側が初年次経験 (First Year Experience: FYE) として学寮での学びや学生生活に焦点を当てていることが確認できる<sup>5)</sup>。また、『UBC 学生の戦略計画 (STUDENT STRATEGIC PLAN) 2021-2026』には、その「モットー」として「より良い世界のための生活と学修 (Living and Learning for a better world)」(p.16) が明記され、繰り返し言及されている<sup>6)</sup>。加えて、LLC を含む学寮の実践を主導している「学生居住とコミュニティ・サービス (Student Housing & Community Services)」の組織「ビジョン」には、「我々のビジョンは、コミュニティを構築すること、ウェルビーイングを鼓舞すること、そしてブリティッシュ・コロンビア大学での生活を豊かにすること」と掲げられている<sup>7)</sup>。こうした学内の戦略計画の文書や関係組織の資料において、明確な記述として学寮を拠点とする経験的な学び・生活の意義が記されていることは、一事例としても特筆すべきといえることができる。

### 3-2. RA の業務内容とその変化、訓練・能力開発の実態

#### (1) RA の業務内容とその変化

また、一部 2-1. でも述べてきたが、学習志向の教育的な学寮を実践的に支える特徴的な取り組みとして RA の存在は欠かせない。正確な RA の人数については、今回の調査等では資料的制約により不明である。ただし、実際に実地訪問した各学寮の規模や学生数からも推測するに RA として活躍している学生 (学寮生) は少なくないだろう。ここでは、こうした RA が実際にいかなる業務を行っているのか。また、コロナ禍以前の時期とも経年的に比較することで、RA に求められる業務内容とその特徴を明らかにする。

表 5 は、RA に求められる業務内容について、ブリティッシュ・コロンビア大学が作成公表してきた RA の職務記述書 (詳細は、表 2 参照) に基づいて、コロナ禍以前の「2018-2019 年版」、「2020-2021 年版」、そして「2023-2024 年版」における具体的な業務、職務の文言に依拠し、独自に整理した。ここで特徴なことは、この約 5 年間を通じて同じように求められてきた業務内容がある一方で、新たに追加された業務内容がある点である。例えば、一貫して業務内容に位置づけられているのは、RA に携わるうえで必須と思われる「管理義務 (Administrative Duties)」や「訓練と能力開発 (Training & Development)」等に

についての業務である。これは、後述の表 5 を参照しても明らかである。また、「2020-2021 年版」以降に追加された業務内容として、一つに「活動とイベントづくり」がある。これは、前述のブリティッシュ・コロンビア大学における「学生居住とコミュニティ・サービス」の「ビジョン」に、「コミュニティを構築すること、ウェルビーイングを鼓舞すること、そしてブリティッシュ・コロンビア大学での生活を豊かにすること」と明示されていたことも、これらを具現化し、実践するものとして位置付けていることが考えられる。また、もう一つには、「エンゲージメント (Engagement)」、「ピアサポート (Peer Support)」が挙げられる。こうした活動が RA の業務内容として加わる背景には、米国で「学生エンゲージメントが学士課程教育を巡る議論の焦点の一つとなっている」ように (福留、2020、66 頁)、カナダの大学においても重要な「議論」となっている可能性が考えられよう。

表 5 RA に求められる業務内容の変化—2018-2019 ~ 2023-2024 (年版) —

2018-2019 年版	2020-2021 年版	2023-2024 年版
・コミュニティ・サポート	・コミュニティ・サポートと エンゲージメント ・ピアサポート ・存在、視認性、夜間	・コミュニティ・サポートと エンゲージメント ・ピアサポート ・存在、視認性、夜間
・(教育的) プログラミング	・活動とイベントづくり	・活動とイベントづくり
・行動基準と調整規制	・支援活動とレジデンス基準	・支援活動とレジデンス基準
・管理義務	・管理義務	・管理義務
・スタッフ訓練と能力開発	・訓練と能力開発	・訓練と能力開発

出典：表 2 の「④ Residence Advisor 2023-2024 Job Description」、「⑤ Residence Advisor 2020-2021 Job Description」、「⑥ Residence Advisor 2018-2019 Job Description」の記載に基づき、一部抜粋し、筆者作成。

## (2) RA の研修・能力開発の実態

そして、最後にこうした RA が受講する研修 (トレーニング) の実態を紹介する。表 6 は、ブリティッシュ・コロンビア大学の学寮で実際に行われたある 2 日分の RA 研修のスケジュールを整理したものである。1 週間でも月曜にこうした RA が関与する各種ミーティング、こうした研修が組まれることが多いようである<sup>8)</sup>。特に、表 6 の「扱われた内容、テーマ・トピックス」について簡単に言及すると、RA の基本的な役割を理解する「RA の役割 101」をはじめ、RA として身に付けておくべき「メンタルヘルスのリテラシー」や、「自殺の認知と介入トレーニング」の内容、トピックスが組み込まれている点は、日本の大学における学寮にも示唆的である。更に、見逃せないのが「リフレクション」の時間がこの 2 日間のいずれにも設定されていることである (表 6 参照)。RA の業務、活動、役割を通じて、学生自身が学寮の中でも経験的に学べる契機や機会が存在することは、大学教育に

おける教育的な意義を有する取り組みとして意味があると言えることができるだろう。

表 6 ブリティッシュ・コロンビア大学における RA の研修スケジュール

2022年8月22日(月)	扱われた内容, テーマ・トピックス
9:30 (～10:00)	チームと巡回の集まり
10:00 (～11:30)	開会のセレモニー
11:30 (～13:30)	昼食、巡回
13:30 (～14:30)	<b>RA の役割 101</b>
14:30 (～15:30)	レジデンス基準
16:00 (～17:00)	見直し・再検討
17:00 (～17:30)	リフレクション
17:30 (～18:30)	ミーティング
2022年8月29日(月)	扱われた内容, テーマ・トピックス
9:00 (～10:00)	メンタルヘルスのリテラシー
10:00 (～11:30)	自殺の認知と介入トレーニング (パート1)
11:30 (～13:30)	昼食、巡回
13:30 (～14:15)	自殺の認知と介入トレーニング (パート2)
14:30 (～15:30)	チームタイム
15:30 (～16:00)	リフレクション
17:00 (～18:00)	ミーティング

出典：表 2 の「③ RA (Residence Advisor) training schedule」の記載内容に基づき、筆者作成。

#### 4. おわりに—論点の提示—

本稿では、カナダの学寮、特に学習志向を有する LLC の種類や特徴を明らかにした後、学寮研究で扱われてきたテーマや、近年の特筆すべき調査研究の動向とその特徴を整理してきた。続いて、ブリティッシュ・コロンビア大学の学寮の取り組み事例に焦点を当てることで経験的な学びと学生生活のベースとなっているのが同大学の学寮である、という明確な位置づけやビジョンの存在、教育的意義を有する LLC に多く見られる RA の業務内容や研修の詳細もあわせて明らかにした。以上の分析を踏まえ、本稿では、カナダの大学における学習志向を有する学寮の特徴について、探索的ではあるものの「基礎的資料」(堂免、2023、90 頁)として描出することができたと考える。

最後に、本研究で得られた知見に基づき、カナダにおける学寮の実践とその教育的意義を深化させるために必要となる論点を提示する。第 1 に、正課教育の授業や、コ・カリキュラムの取り組みと学寮における取り組みを積極的につなげている事例の特徴を明らかにすることである。第 2 に、RA を含む学生、学寮担当職を含む教員、事務職員の 3 者が連携

しての学生支援の取り組みがカナダの学生支援を形づくり、実践的貢献を果たしている可能性が高いことである。そして、第3に、教育的意義を有する学寮でRAになる学生と、RAにならない学生（通学生を含む）をめぐって、学寮で促進される経験的な学びや成長については更なる詳論が必要となる。これらの論点の検討をめぐっては、別稿を期したい。

## 付記

本研究は、JSPS 科研費 18K13204（若手研究）、JSPS 科研費 19H01688、JSPS 科研費 22K13727（若手研究）の助成による研究成果の一部である。また、本研究にあたり、共同研究者として有益な助言、示唆を下さった安部有紀子准教授（名古屋大学高等教育研究センター）、日暮トモ子教授（日本大学文理学部）に厚く御礼申し上げます。

## 注

- 1) 関連した分析は、蝶・安部（2023、145 頁）を参照。
- 2) 表 2 ⑦の資料の 1 頁目より引用。
- 3) 留学体験記（e.g., UBCJP 編集委員会編、1993）は存在するが、そのなかで詳細な事例分析はなされていない。
- 4) <https://www.timeshighereducation.com/world-university-rankings/2024/world-ranking?page=1#> < 2024 年 1 月 22 日アクセス >
- 5) 表 2 ①の資料の 32 頁目を参照。
- 6) [https://scs-studentplan-2022.sites.olt.ubc.ca/files/2023/07/UBC\\_Student-Strategic-Plan\\_2021\\_v%C6%92.pdf](https://scs-studentplan-2022.sites.olt.ubc.ca/files/2023/07/UBC_Student-Strategic-Plan_2021_v%C6%92.pdf) < 2023 年 11 月 13 日アクセス >
- 7) 前掲注 2)。
- 8) 表 2 ③の資料を参照。

## 参考文献

- 安部有紀子・橋場論・望月由起（2017）「学生支援における学習成果を基盤としたアセスメントの実態と課題」『高等教育研究』第 20 集、113-133 頁。
- 安部有紀子・植松希世子（2022）「米国学生寮 LLC（Living Learning Community）の実態と課題—教育的アプローチの開発に着目して—」『大学論集』第 54 集、105-120 頁。
- Boyer E. L. (1987). *College: The Undergraduate Experience in America*. (First Edition). New York, NY: Harper and Row Publishers., (喜多村和之・館昭・伊藤彰浩訳) (1996)『アメリカの大学・カレッジ<改訂版>—大学教育改革への提言—』玉川大学出版部。
- Callahan, Kathleen. (2020). Housing and Residence Life. In David Miriam, E. & Amey Marilyn J. (Eds.), *The SAGE Encyclopedia of HIGHER EDUCATION*. (Volume 4). New York and London: SAGE Publications Ltd. (p.1449). (東京都立中央図書館所蔵)。
- 蝶慎一（2021）「カナダの大学における学生支援の展開とその特徴—CACUSS（Canadian

- Association of College and University Student Services) の取り組みに注目して一」『大学論集』第 53 集、71-84 頁。
- 蝶慎一 (2023) 「米国学生支援における「カリキュラム・アプローチ」に至る経緯と動向」香川大学大学教育基盤センター編『香川大学教育研究』第 20 号、67-80 頁。
- 蝶慎一・安部有紀子 (2023) 「学生の学習を促進する日本の学寮プログラムとアセスメントの実態と課題」『名古屋高等教育研究』第 23 号、141-159 頁。
- Dennison, John D.(1997). Higher Education in British Columbia, 1945-1995: Opportunity and Diversity. In Jones, Glen A.(Eds.), *Higher Education In Canada Different Systems, Different Perspectives*. New York and London: Garland Publishing Inc. (pp.31-58).
- 呑海沙織・溝上智恵子 (2010) 「北米の大学図書館における学習支援空間の歴史的変容—ブリティッシュ・コロンビア大学の事例から」『カナダ教育研究』第 8 号、1-17 頁。
- 堂免隆浩 (2023) 「第 6 章 なぜ政策学では 1 事例のみの研究であっても評価されるのか」井頭昌彦編『質的研究アプローチの再検討 人文・社会科学から EBP まで』勁草書房、173-202 頁。
- 福留東土 (2020) 「アメリカ学士課程教育における学生エンゲージメントの展開—ペンシルバニア州立大学における改革を事例として—」『兵庫高等教育研究』第 4 号、59-69 頁。
- Hobbins Justine.(2016). *Investigating the Relationship Between Residence Learning Community Participation and Student Academic Outcomes*. (<https://atrium.lib.uoguelph.ca/items/b0ae6198-7adf-479a-9d64-b3810b8d0f41>) < 2023 年 11 月 13 日アクセス >
- 朴木佳緒留 (2018) 「<書評> 犬塚典子著『カナダの女性政策と大学』」『教育学研究』第 85 巻第 4 号、508-510 頁。
- 石原宏 (2023) 「9 事例研究法 (1) 単一事例の事例研究」石原宏・川部哲也編『新訂臨床心理学研究法特論』放送大学教育振興会、156-171 頁。
- 溝上智恵子・中島夏子 (2017) 「ブリティッシュ・コロンビア州における学士課程教育の現状：3 大学の事例」『カナダ教育研究』第 15 号、51-54 頁。
- 野村康 (2017) 『社会科学の考え方』名古屋大学出版会。
- 佐藤仁 (2016) 「第 3 章 たった一つの村を調べて何になるのか」『野蛮から生存の開発論—越境する援助のデザイナー—』ミネルヴァ書房、75-97 頁。
- UBCJP 編集委員会編 (1993) 『100 人のカナダ留学記 立命館・UBC ジョイントプログラム第 1 期レポート』文理閣 (高松市中央図書館所蔵)。
- Vetere, Lane, H.(2010). Housing and residence life. In D. Hardy Cox & C.C. Strange (Eds.), *Achieving student success: Effective student services in Canadian Higher Education*. Montreal & Kingston · London · Chicago: McGill-Queen's University Press. (pp.77-88).